

【中長期目標(学校ビジョン)】

岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

【今年度の重点目標】

- 1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。
- 2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。
- 3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。
- 4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。
- 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。

		平成31年度当初			評価結果（ ）月		
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 キャリア教育の充実	進路実現	・7年連続して進路実現100%。そのうち第1志望での合格・内定率は95%を超えた。 ・2年生の1月末時点での進路希望未決定者は約5%であった。 ・より高い進路実現を目指す。 ・就職後1年以内の離職率が県平均より高い。	・進路実現100%。 ・第一志望合格内定90%以上。 ・2年生1月末時点での進路希望未定者が5%未満。 ・就職後1年以内の離職率を県平均に近づける。	・系列選択、科目選択、進路選択等の場面におけるガイダンス機能の充実。 ・日ごろの面談の充実。 ・全教職員で全生徒を指導する意識の共有。 ・定着指導の徹底。 ・高い目標を掲げさせ、就職活動に主体的、積極的に取り組ませる指導の徹底。			
	部活動の振興	・部活動全員加入を原則としており、未加入者は0名。	・全員加入の継続 ・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。	・部活動指導計画に基づいた適切な運営をとoshi、技術向上のみならず人間的な成長を支援。			
	基本的生活習慣の定着	・頭髮服装再検査者数は、月によってまちまちではあるが、クラス平均5人以内は達成できていない。頭髮については軽微な違反がほとんどであり、細かく指導していただいた結果と受け止めている。 ・学校評価アンケートにおいて、生徒は約9割の生徒が挨拶を心掛けていると回答しているが、職員は生徒が挨拶や返事、日常生活のマナーが守られていると回答したのは約7割と捉えに開きがある。	・頭髮服装指導において再検査を受けなければならない生徒の減少。 ・挨拶、返事、頭髮服装等の基本的生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が75%以上となる。	・日常的な指導と定期的な全体指導の充実。 ・指導ノートの有効活用。 ・生徒・保護者ファーストな姿勢による指導。 ・家庭との適時な連携。			
2 心身のバランスの取れた人間の育成	豊かな人間関係づくり	・SNSを通した人間関係のトラブルが存在。 ・周囲への配慮に欠けた言動をとる生徒がいる。	・SNSの適切な利用、携帯電話等のマナーが定着。 ・周囲に配慮した言動ができる。 ・生徒にとって学校が安心して安全な場所である。	・ケータイ・インターネットマナー研修会等の指導を継続して実施。 ・生徒の小さな変化を見逃さず早期に対応する。			
	基礎学力の向上	・基礎学力の定着が不十分な生徒が多い。 ・教職員の中にイワッツ検定の見直しを求める意見が存在。 ・家庭での学習時間の平均は69分、学習時間30分未満の生徒は全体の10%未満と、学習習慣はすこしずつ定着してきた。	・課題や学校での学習の分量に応じた家庭学習が継続して行われている。 ・保護者アンケートで「家庭学習が毎日1時間以上できている」に肯定的な意見が40%以上。 ・1・2年生の基礎力診断テストにおいてDゾーンの生徒数が年度初めより5%以上減少する。	・リスタート学習における適切な指導。 ・イワッツ検定の在り方を含め教育改革委員会を設置し今後の岩美高教育の在り方について検討する。 ・家庭学習が見込まれる課題の提示と、適切な評価の実施。			
	学習指導の改善	・授業やイワッツ検定をとおして学力がついたと感じる生徒が77%。 ・評価アンケートにおいて生徒は「授業に集中しやすい環境」が86%、「自分の意見や考えを発表する機会あり」が85.5%、「授業のねらいと板書内容が明確」は85.5%の肯定評価。「絵や写真等でわかりやすい」は中間評価より1割程増加し75.4%となった。 ・保護者の80.8%が「一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答。	・各教科に対する生徒の興味関心が年度当初より向上している。 ・授業に関する評価で肯定的な評価をする生徒が各項目とも85%以上。 ・「一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答する保護者が80%以上。	・ICTの活用、ALの実践などを通した学習意欲の喚起。 ・授業参観の促進や授業研修会を充実し、校内の学習指導改善の体制作りを進める。			
4 自己肯定感の伸長	教育環境の改善	・生活満足度調査では自己肯定感の低い生徒が多い。 ・生活満足度調査で「学校に行きたくない」としばしば感じている生徒が全校で10%強存在する。 ・岩美高版UD等チェックリストを作成し効果的な指導・支援に取り組んでいる。	・UDを意識して教育活動を展開する教職員の割合が70%以上	・生徒観察、個人面談や個別学習指導、保護者や関係機関との連携等に努め、個に応じたサポートを実施する。 ・生徒の自己理解、他者理解を促す取り組みを実施する。 ・生徒の自己肯定感を高めるための取り組みのヒント等を教職員向けに情報発信する。 ・岩美高版UDチェックリストを用い、教職員各自が取組を振り返ったり改善を工夫する。			
5 地域と連携した学校	岩美町との効果的な連携 授業・部活動等を通した地域連携の実施	・ジオパーク学習、イワッツミッション、インターンシップなどで岩美町と連携した取組を実施。 ・体育・福祉の授業や部活動単位で地域との交流を実施。	・地域連携、地域貢献の取り組みを通して、生徒が、自らが居住する地域を支える存在であることを自覚する。 ・参加した生徒の自己有用感が向上し、人間的に成長する。	・岩美町地域連携コーディネーターとの効果的な連携。 ・イワッツ・ミッションについて講師、担当教員との協議を重ね、活動内容を充実させると同時に授業時間を確保する。 ・ホームページ掲載、報道機関への情報提供など情報 ・生徒、職員に過重な負担がかからないように配慮しながら、可能な限り地域の要請に応える。			

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]